

教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における 長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の 2008年度の試みについて

堀井健一（長崎大学教育学部）

はじめに

去る2005年11月3日（木）に長崎歴史文化博物館が開館して以来、この施設が小学校・中学校・高等学校における歴史学習において利用する価値の高いものであることは誰もが認めるところであろう。

筆者は、自身が勤務先で担当する歴史学研究の講義の中で受講生に対して長崎歴史文化博物館の見学を企画し、見学後に小学生または中学生向けの見学用ワークシートの作成を行なうように指導した。受講生は、そのほとんどが勤務先の学校教育教員養成課程の初等教育コースおよび中学校教育コース社会選修の学生であるが、それ以外に若干、中学校教育コースの他の選修の学生で中学校社会の教員免許取得希望者が含まれる。教育コースの特性上、上記のとおり、受講生には小学生または中学生向けの見学用ワークシートを作成させることにした。学生による見学は2008年5月31日の午前中の約2時間半を当てたが、その中には初めに当該博物館研究員による講座室での博物館についての説明が含まれる。当日の見学学生数は21名であり、その後の作成ワークシートの提出者は同じく21名である。

小学生または中学生の歴史の学習において長崎歴史文化博物館を利用することは有意義であると思われる。さらに、その利用の際に学習用ワークシートがあれば、博物館内の多種多様な展示物を前にして効率的かつ効果的に歴史学習を行なうことができよう。今回の上記のようなワークシート作成課題の試みについてはすでに2005・2006・2007年度に実施し、その内容については本誌の第5号の中の共著の拙稿（2005年度分）および第6号の中の拙稿（2006年度分）で報告を行なっている¹⁾。

本稿では、今年度の学生による小学校・中学校の歴史学習を想定した長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて、課題提出時に学生によって回答してもらったアンケートの結果を通して学生が当該の博物館の何に注目してどのようにワークシートを作成したかを分析するとともに、若干、提出されたワークシートの作成状況を分析したい。なお、現行の学習指導要領における博物館の利用の意義については拙稿を参照されたい²⁾。

本稿では、第1章の中で学生が長崎歴史文化博物館の展示物のうち何に注目したかをアンケート結果の分析を通じて明らかにする。第2章の中では学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物をアンケート結果の分析を通じて明らかにする。第3章の中では学生が設定した主題について考察する。第4章の中では学生が

取り組んだ学習ワークシート作りにおいて更なる技術の伝授がうまく行なわれたか否かについて、若干、考察する。第5章の中では学生による作成ワークシートの内容について、若干、批評する。第6章の中ではアンケート結果に基づいて今回のワークシート作成の課題がいかんにか学生の教育技術の向上に寄与したかを探るつもりである。そして、以上の試みを本稿の中で報告することによって、筆者が勤務先で行なっている教員養成のあり方について広くご意見を賜りたいと願っている。

第1章 学生が関心を持った博物館の展示物について

今回の学習ワークシート作成の課題では、過去の試みに引き続き、アンケート調査を行なった。アンケートの設問は、「(a) あなたが一番関心を持った展示物は何ですか?」、「(b) 児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物は何ですか?」、「(c) ワークシートを作成する時に一番工夫をしたところはどういうところですか?」、「(d) ワークシートの題名はどのような理由から付けましたか?」、「(e) ワークシート作成時に実習についての案内文に記載された論文を参照しましたか?」、「(f) 博物館の見学およびワークシート作成について感想を述べて下さい。」の5つである。前回のアンケート調査と異なる点は、学習ワークシートの作成の際に作成者である学生により良いワークシートを作成してもらうために参考となる論文を参照してもらいたいと願ったことから、「(e) ワークシート作成時に実習についての案内文に記載された論文を参照しましたか?」という設問を新たに加えたことである。

本章では上記の「(a) あなたが一番関心を持った展示物は何ですか?」の設問に対するアンケート回答から、ワークシート作成者である学生が関心を持った長崎歴史文化博物館の展示物を分析することを試みる。下記に学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙する。ただし1人が複数回答している場合がある。なお、列挙の仕方は、博物館の2つのゾーンの各コーナー別とし、各コーナーの区分けは博物館のリーフレットに記載の分類に従った。

〔歴史文化展示ゾーン〕

〈大航海時代〉

ベハイム地球儀 (1人)

南蛮屏風、南蛮人来朝之図 (2人)

南蛮船の展示物 (1人)

オランダ船から原城に打ち込まれた砲弾 (1人)

〈長崎貿易〉

長崎商人シミュレーション、貿易品の値段を推測するコーナー (6人)

〈中国との交流〉

唐人屋敷の模型 (1人)

眼鏡橋を組み立てるコーナー (1人)

〈貿易都市長崎〉
 貿易都市長崎のまちの情景など（1人）
 〈オランダとの交流〉
 蘭館図絵巻（1人）
 解体新書（4人）
 〈その他〉
 体験型コーナー（1人）

〔長崎奉行所ゾーン〕
 〈長崎奉行所立山役所〉
 長崎奉行所立山役所（博物館の建物を含む）（1人）
 〈「犯科帳」の世界〉
 犯科帳（1人）
 〈キリシタン関連資料〉
 キリシタン関連資料（1人）
 〈書院〉
 書院（1人）

学生が一番関心を持った展示物は以上のとおりである。次に、以上のような、学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙したものを数値化してコーナー別に整理して表にすると下記のとおりになる。

表1 学生が一番関心を持った展示物

歴史文化展示ゾーン	
大航海時代	5
長崎貿易	6
中国との交流	2
貿易都市長崎	1
オランダとの交流	5
長崎奉行所ゾーン	
長崎奉行所立山役所	1
「犯科帳」の世界	1
キリシタン関連資料	1
書院	1

アンケートの回答では1人が複数回答している場合があるので、学生が一番関心を

持った展示物の多寡を単純に述べることはできないが、本稿では、前回に引き続き、あえて分析を試みる。学生が一番関心を持った展示物の中では「長崎貿易」コーナーのものを挙げた件数が6件で一番多く、次に「大航海時代」と「オランダとの交流」コーナーのものを挙げた件数が5件で多いことが分かる。内容を見てみると、「長崎貿易」コーナーの場合はそのすべてが長崎商人のように貿易品の値段を推測するコーナーに関心を持った事例である。また、「オランダとの交流」コーナーの場合は主として「解体新書」に関心が集まっている（5件のうち4件）。それら3つのコーナーを包括して言えることは、学生たちが貿易都市長崎に関心を持っていることである。この結果には、学生たちにはやはり出島の存在が長崎の歴史のシンボルとして映っていることや彼らが国際理解とその教育に関心があることが背景にあると考えられる。また、今回のアンケート調査では、長崎奉行所関係の展示物にあまり関心が集まらなかった。

第2章 学生が児童または生徒に伝えたい博物館の展示物について

本章では上記の「(b) 児童または生徒が一番伝えたいと思った展示物は何ですか？」の設問に対するアンケート回答から学生が関心を持った長崎歴史文化博物館の展示物を考察したい。下記に、学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙する。

〔歴史文化展示ゾーン〕

〈大航海時代〉

ベハイム地球儀（1人）

南蛮屏風、南蛮人来朝之図、南蛮文化（4人）

南蛮船の展示物（1人）

オランダ船から原城に打ち込まれた砲弾（1人）

〈長崎貿易〉

長崎に入ってきた物品、貿易品（1人）

貿易都市長崎のまちの情景など（1人）

外国とのつながりが分かるもの（1人）

オランダ船と唐船の出入港の映像（1人）

〈長崎くんち〉

おくんち（1人）

〈オランダとの交流〉

シーボルトと医療器具（2人）

蘭館図絵巻（1人）

解体新書（1人）

長崎と関わりのある偉人の紹介（1人）

〔長崎奉行所ゾーン〕

〈キリシタン関連資料〉

キリシタン関連資料，キリスト教，踏み絵とその摩耗，信者の取り締まり（6人）

〈お白洲〉

お白洲でのお裁きの寸劇（1人）

学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物としてアンケート用紙に記載したものは以上のとおりである。次に，以上のような，学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物としてアンケート用紙に記載したものを数値化してコーナー別に整理して表にすると下記のとおりになる。

表2 学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物

歴史文化展示ゾーン	
大航海時代	7
長崎貿易	4
長崎くんち	1
オランダとの交流	5
長崎奉行所ゾーン	
キリシタン関連資料	6
お白洲	1

アンケート回答では1人が複数回答している場合があるので，学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の多寡を単純に述べることはできないが，本稿では，あえて考察を試みる。学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の中で一番多く挙げられたものは，「大航海時代」コーナーのものが7件，次に「キリシタン関連資料」コーナーのものの6件であり，次に「オランダとの交流」コーナーの5件と「長崎貿易」コーナーの4件が続く。学生が「児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物」は，前章の中の学生が「一番関心を持った展示物」とは異なって，小学校または中学校の歴史の授業と深く関わる事柄であることが予想される。それゆえ，アンケート回答者の学生たちはかかる重要性を認識して南蛮人の来航，江戸時代における鎖国中の長崎・出島の交易とオランダとの交流，鎖国と関連のあるキリシタンの取り締まりを主として意識したと思われる。学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の回答状況では，前章の学生が一番関心を持った展示物の回答状況とは異なり，長崎奉行所関係の展示物，特にキリシタン関連資料に関心が集まったことが筆者には注目に値すると思われる。その原因は定かではないが，推測するに，昨年11月24日には長崎市内で，キリスト教が禁じられた江戸時代に長崎県など全国各地で処刑された「ペトロ岐部と187殉教者」をカトリッ

ク教会が福者とすることを宣言する列福式が開催されたのでそれに関連する情報が以前から新聞・テレビなどを通じて度々紹介されていたことから、その影響があったのかもしれない。

第3章 学生が設定した主題について

本章の中では学生が実際に考えて設定した、ワークシートの主題を考察したい。以下にそれを列挙する。

(1) 初等教育コースの学生

日本と外国の交流の歴史

長崎奉行所ってどんなところ？

長崎と外国

歴史文化ゾーン 海外交流

長崎と外国との関わりと長崎奉行の役割について学ぼう

長崎の歴史を探ろう

昔の長崎にタイムスリップ!!

長崎の歴史～長崎歴史文化博物館を見学しよう！～

長崎歴史博物館を探検しよう！

(2) 中学校教育コースの学生

長崎の中の海外・海外の影響を受けた長崎

海の玄関・国際都市長崎を知ろう

比較をしてみよう

長崎の象徴くんち・長崎とオランダ

長崎貿易について学ぼう

外国との関わり

日本と海外との交流について知ろう

オランダとの関わり

長崎にはどのような西洋文化が入ってきたのか調べよう

西洋人との貿易

長崎と外国とのかかわりを知ろう

江戸時代の日本と朝鮮

上記の主題の一覧表を概観して気づくことであるが、江戸時代の長崎の海外との交流を主題としたものが目立つようであるが、一部は奉行所と長崎くんちが主題として取り上げられている。上記の主題に挙げたものについては前章の中の児童または生徒に一番伝えたいと思ったものの傾向とは異なってキリシタン関連資料を扱った主題が非常に少ないという点が指摘できるので、ワークシートの主題に関しては

その作成者が自身の問題関心に沿ってそれを決定した傾向があると言えよう。

第4章 ワークシート作成の更なる技術の伝授に関連することについて

今回の学習ワークシートの作成の課題においては、前もってその作成の更なる技術を伝授するためにある論文を参照するように指導した。本章の中ではその指導がうまく生かされたか、そしてどのような効果を生じたかについて検証したい。

その論文とは、筆者がかつて附属小・中学校の教員たちと共同で執筆したものであり、今回の課題と同じようなものを初めて試みた際に提出された受講生の諸成果を吟味して良かった点や至らなかった点を共同して指摘したものを論文の形にまとめたものである³⁾。

課題提出時に受講生に提出させたアンケートの中で「ワークシート作成時に実習についての案内文に記載された論文を参照しましたか？」という設問およびそれに「はい」または「いいえ」で回答する記載項目と、「参照した場合、役に立った点を下記に記して下さい。」という付属の指示事項を記載しておいた。

回答の結果は次のようなものになった。論文を参照したか否かを問うた「はい」と「いいえ」の二者択一の設問の回答結果は、「はい」と回答した者が6名、「いいえ」と回答した者が15名であった。筆者は講義担当者として、参照を勧めた論文を事前に複写して配布したわけではなく、受講生が自主的に図書館に足を運んで閲覧または複写をすることを期待した。それゆえ、受講生の約7割が図書館に足を運ぶ手間を惜しんだようである。

次に、「参照した場合、役に立った点を下記に記して下さい。」という付属の指示事項に対する回答の結果を紹介したい。この設問に回答を寄こしたのは6名中5名であった。下記にその回答を列挙する（複数回答がある）。

- ・一問一答式に陥らず、自由記述欄を設けるとよい。
- ・博物館で調べることと、博物館で体感する、気づく、考えることの2つの要素をワークシートに入れる。
- ・見学日の記入欄を入れておく。
- ・博物館見学に行く前に事前に予想をたてる問題を取り入れた点。そうした問題を取り入れたことで、生徒は自分の考えを考える機会ができ、加えて博物館で調べてわかった答えと最初自分で考えた答えとを比較・吟味することができると思われる。
- ・（学習）指導要領を参考にして書くべきだという点。
- ・名前を書く場所や日付が記入できるようにしておくことなど、初歩的だが忘れがちなことが書かれていてよかった。
- ・先輩方がどういうことをしていたのかを知れて参考になった。
- ・どのような視点を持って作成すべきなのかが示されていてよかった。

アンケートの回答を見る限り、例えば、生徒に博物館訪問前に事前に予想を立てさ

せてその訪問を有意義なものにさせる技術，単調な一問一答式に陥らないよう自由記述欄を設ける技術，見学日の記述欄を設けるなどのワークシート作成時の初歩的な技術などを受講生が論文を通して学び，それをワークシート作りに生かしたことが分かる。

それゆえ，博物館を利用するためのワークシート作成の更なる技術を伝授するためにも，筆者は上記のような論文の参照を今後も講義の中で指導していきたいと思う。

第5章 学生による作成ワークシートの内容についての若干の批評

今回の学習ワークシートの作成の課題は，ワークシートの分量としてA4判3-4枚程度とすることを学生に指示した。作成したワークシートの提出締切日は，博物館見学後の約40日後であった。

提出されたワークシートの中には児童・生徒の氏名や博物館訪問日の記入欄がないものが散見され，初歩的な決まりごとに思いが至らなかった受講生がいたことが分かる。

他方で，今回の受講生の長崎歴史文化博物館への訪問時には，これまでの訪問とは違って，受講生が持参したデジタルカメラによる撮影が館員によって許可されたので，その撮影画像が少なからず生かされた力作が多く見受けられた。また，これによる相乗効果によるものであるか否かは不明であるが，過去の受講生のワークシート作成の例よりも，ワープロによる作成技術の点で工夫がより多く見受けられたような印象を得た。ただし，この点は具体的に数値化して比較したわけではなく，あくまで筆者の印象に基づく指摘である。

2005度の受講生作成の諸ワークシートに対する丁寧な批評を当時の附属中学校と附属小学校の教員と共に行ない，その成果を拙稿⁴⁾の中で報告したことは前述のとおりであるが，今回の受講生においてはワークシート作成の前にあらかじめその拙稿を参照しておくように指導したけれども，実際に参照した者は約3割の受講生にとどまった。教員養成課程における更なる技術の向上のためにも受講生にはこの面での努力を期待したい。

なお，本稿の末尾にワークシートの作成の諸例を写真（図1）で示しておく。

第6章 受講生が認識したワークシート作成課題の効果

本章の中では今回のワークシート作成の課題がいかに学生の教育技術の向上に寄与したかをアンケート結果に基づいて探る。

以下にアンケートの設問の中の「(e)博物館の見学およびワークシート作成について感想を述べて下さい。」に対して得られた回答の中から，ワークシート作成の課題が学生の教育技術の向上に寄与したことを直接示唆してくれると考えられる記述を拾い上げて一覧にする。

- ・博物館など実際に行く活動や、その為のワークシート作りは教師になった時、役立つ勉強となりました。
- ・ワークシートを作成するという、新しい視点から博物館を見ることにより、自分自身も新しい発見があり、勉強になった。初めてのことで難しかったが、子どもの視点から考える良い機会であった。何度も足を運ぶ良い機会になった。自分自身の成長にもつながると思うので、ぜひ続けていってほしいです。
- ・子どもの視点からワークシートを考えたので楽しかった。実際に現場に出てもワークシートにちょっとした遊び感覚の要素を盛りこんでいきたい。
- ・ワークシート作成は、たくさんの展示物の中からどの分野で作っていくかもすごく悩み、しぼり込むのが難しかったです。小学生対象ということで、漢字や単語もどこまで簡単にすればよいのか、とても難しく感じました。今回、論文〔参照するよう指導した論文のこと、引用者注〕は使わなかったのですが、終わってから使えばよかったとすごく思ったので、夏休みなどの時間を使ってぜひ読んだりしてみてもっとワークシートを作る際のポイントなど学びたいと思いました。
- ・小学校高学年の子どもの能力に合わせることや、各コーナーをまんべんなく巡ることができるように作成するのは難しかったが、実習〔教育実習のこと、引用者注〕にもこの経験は生かせると思う。
- ・ワークシートをこのような形で作成するのが初めてだったため最初は戸惑ったが、楽しく作成することができた。生徒が受け身にならず、積極的に活動ができ、かつ楽しくもあり学びもあるワークシート作成は大変難しいものだと実感した。
- ・今回の見学及びワークシートの作成においては、生徒がどのようにしたら学んだことを身につけるかということ考えた。見学でただ穴埋めだけするような形では長崎について深く知ることは難しいと思うので、見学に行く前の事前指導が大事だということを感じました。
- ・ワークシート作りは大変だったが、勉強になった。
- ・とても実践的な課題だったと思います。もし自分が教師になった時に、絶対に行うことだと思うので、経験しといてよかったと思いました。

以上のとおり、21人分のアンケート結果のうち9人分の回答から、今回のワークシート作成の課題が学生の教育技術の向上に寄与したことを示唆してくれると考えられるものが得られた。受講生は、今回の課題のように、より真剣に児童・生徒のために彼らの視線を意識して教材プリントを作成してくれたと思われる。今回のワークシート作りの課題が教員養成の修業として実践的であると認識したり、課題に取り組む過程でその後の教育実習や就職後の教育現場をも少し意識した受講生がいた。それゆえに今回のワークシート作成の課題は学生にとっては教材研究のよい機会となったと思われる。

おわりに

今回のワークシート作成の課題に際して回答を得たアンケートの結果において、このワークシート作成の試みが学生にとっては、長崎歴史文化博物館の展示物に改めて注目する機会になったし、子どもたちの目線を意識した教材作りの練習の機会になったので有意義であったと思われる。

また、筆者は、先日の2009年2月21日に長崎歴史文化博物館において開催された「長崎歴史文化博物館博学連携協働事業 協力校・パートナーズプログラム平成20年度活動報告会」に当博物館から誘いを受けて出席したが、当博物館においても博物館と学校現場の更なる連携を今年度から推進し始めており、筆者がこれまで行なってきた博物館を利用した学習ワークシート作りについて大変興味を示してくれている様子であった。去る2008年3月28日に改訂された新しい中学校社会科の学習指導要領においても、前のものと同様、歴史学習において「博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査」することを促している⁵⁾。それゆえ、これからも博物館側の更なる取り組みが期待されるだけでなく、他方で、学校現場における博物館の利用が促進されるべきであろう。かかる状況において、筆者は、本稿の中で紹介した、中学校社会科の教員養成課程における長崎歴史文化博物館を利用した学習ワークシート作りの実践活動を今後も学生に指導し続けていきたいと思っている。

註

- 1) 堀井健一，舛田安史，松本和寿「教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて」『教育実践総合センター紀要（長崎大学教育学部附属教育実践総合センター）』第5号，2006年，103－115頁；堀井健一「教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の2006年度の試みについて」『教育実践総合センター紀要（長崎大学教育学部附属教育実践総合センター）』第6号，2007年，69－78頁。なお，2007年度の試みについては諸般の事情により論文にまとめていない。
- 2) 堀井他，前掲誌，5号，104－105頁。
- 3) 堀井他，前掲誌，5号，103－115頁。
- 4) 堀井他，前掲誌，5号，103－115頁。
- 5) 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』（日本文教出版，2008年）144頁。

図1 ワークシートの例

